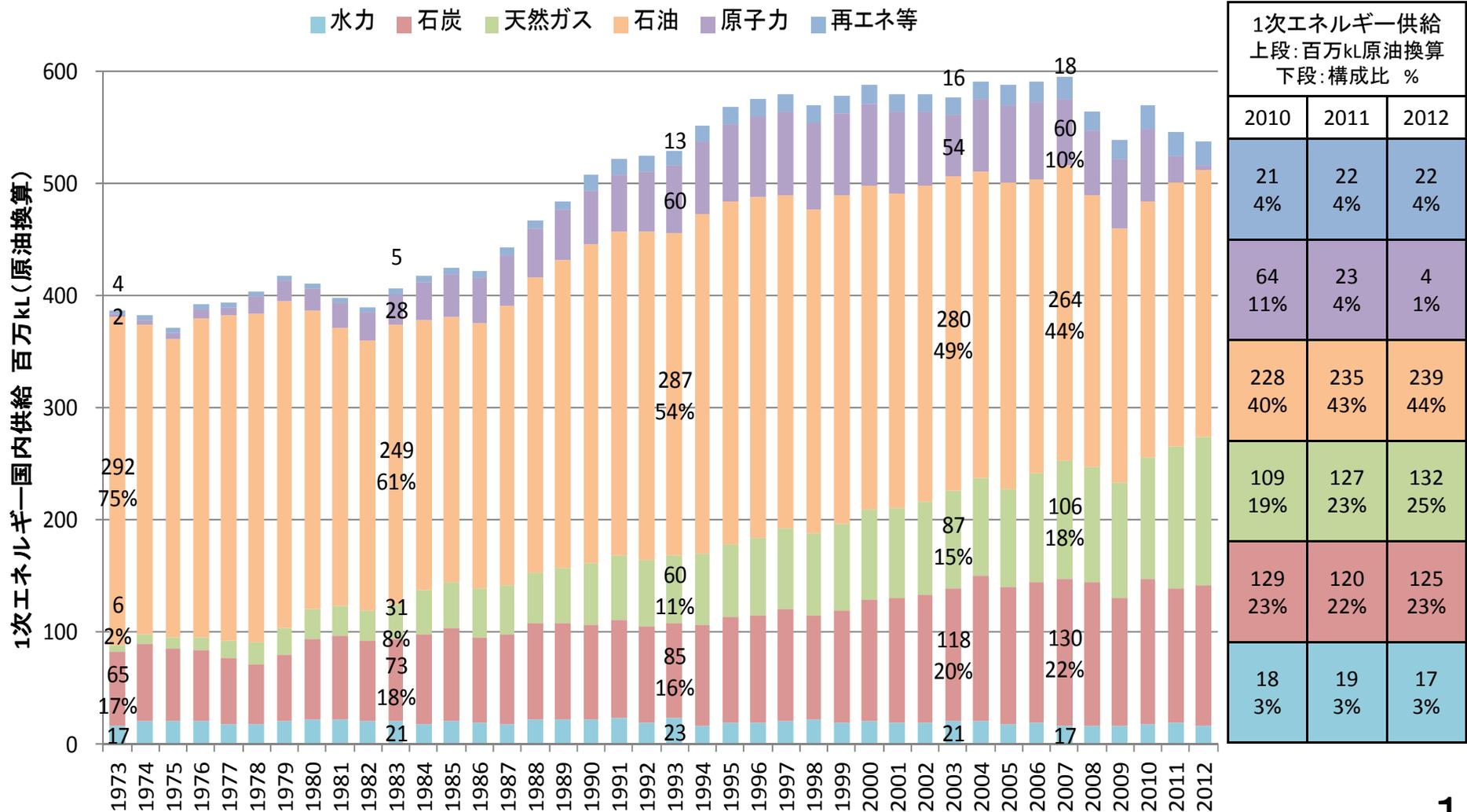


# エネルギー需給の状況について

平成25年11月  
資源エネルギー庁

# 1次エネルギー供給構造の変遷

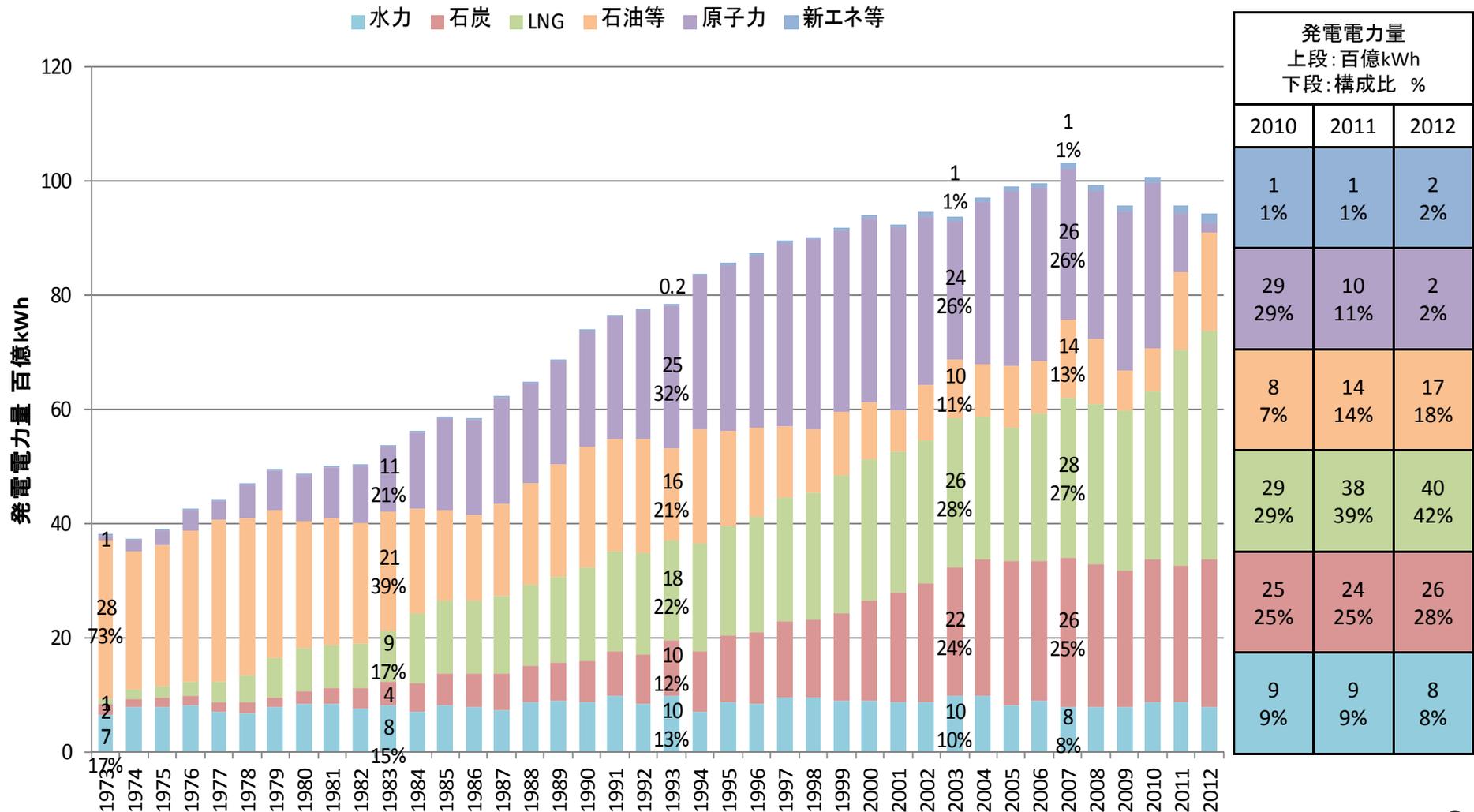
- オイルショック等を踏まえ、石油依存度の低減を推進。
- 震災以降、原子力発電の順次停止により原子力の比率が低下し、原子力代替のための火力発電の増加等により天然ガス、石油の比率が増加。



【出所】総合エネルギー統計。%は構成割合。

# 発電電力量の推移

- 約30年かけて石炭、LNG、原子力を徐々に増加させて石油から代替させてきた。
- 2010年度以降はLNGや石油等による発電電力量が増加。



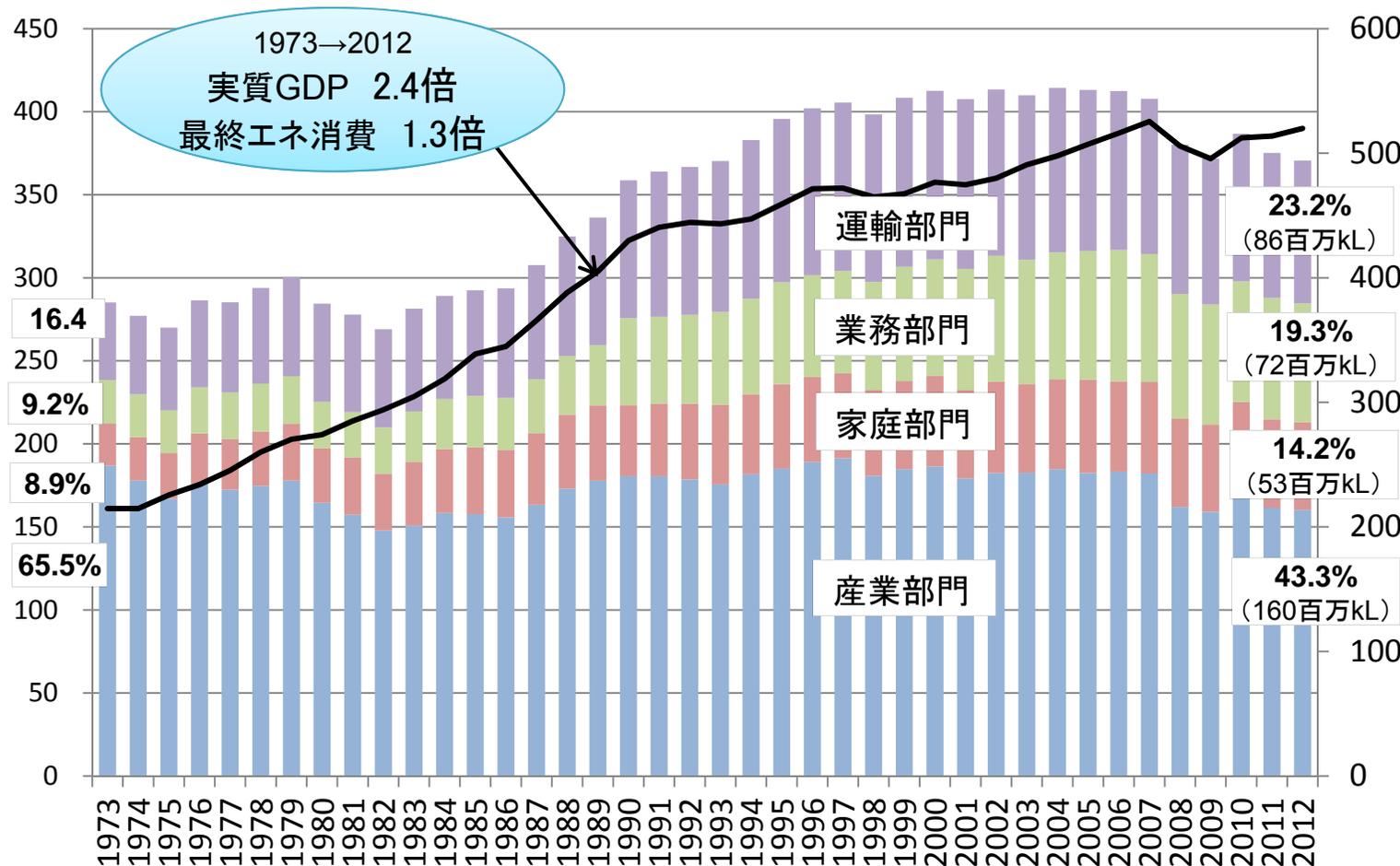
【出所】資源エネルギー庁「電源開発の概要」、「電力供給計画」をもとに作成。％は構成割合。

# (参考) 我が国の最終エネルギー消費の推移

■ 2012年度の最終エネルギー消費は、震災前の2010年度と比べて、生産量の減少や節電効果、2010年度と比べて冷夏暖冬であったこと等から、▲4.2%で減少。

(百万原油換算kl)

(兆円、2005年価格)



最終エネルギー消費量	
1973→2012	2010→2012
1.3倍	▲4.2%
1973→2012	2010→2012
1.8倍	▲3.2%
1973→2012	2010→2012
2.7倍	▲1.3%
1973→2012	2010→2012
2.1倍	▲5.3%
1973→2012	2010→2012
0.9倍	▲5.5%

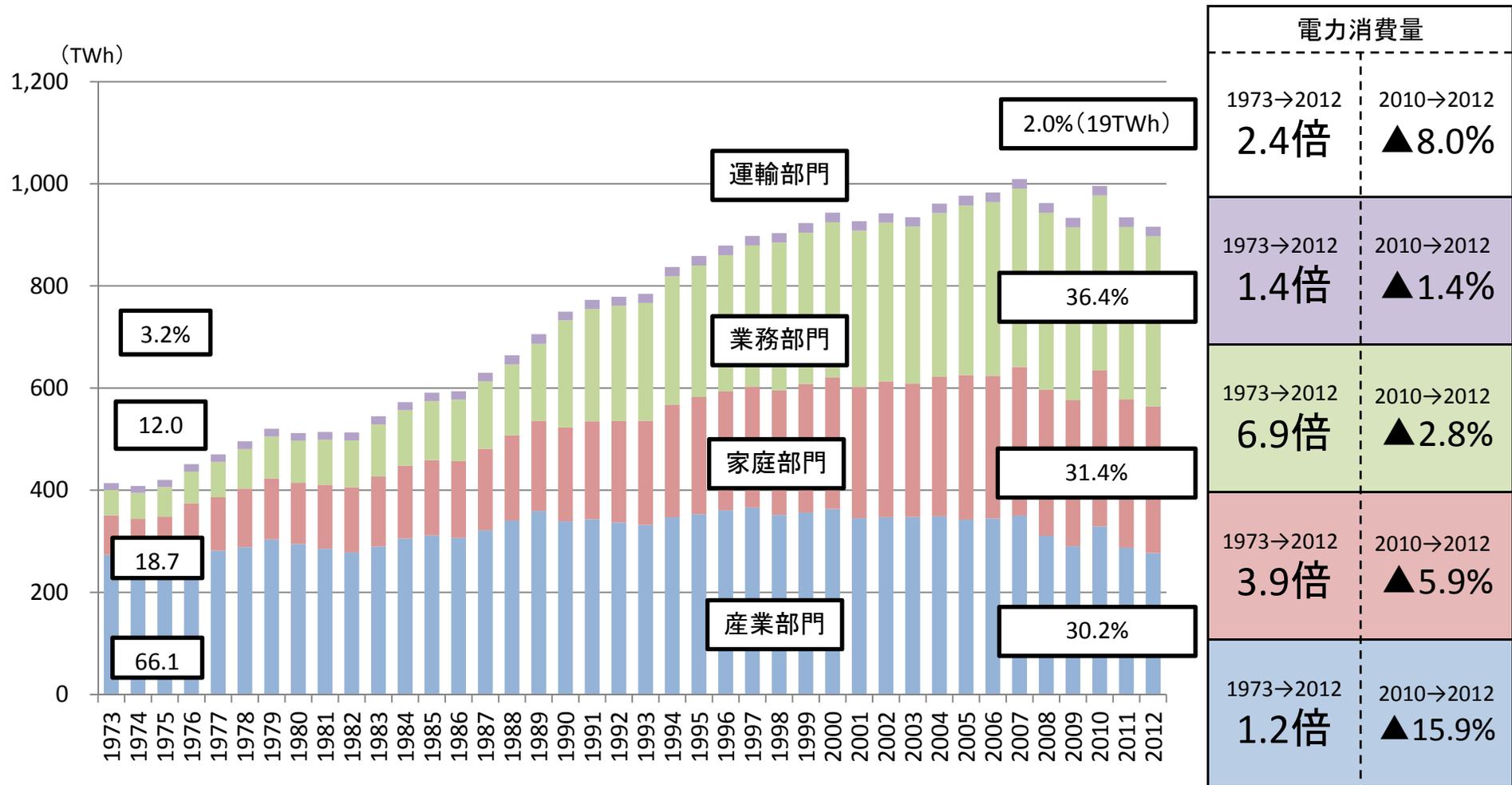
【出典】総合エネルギー統計、国民経済計算年報、EDMCエネルギー・経済統計要覧

(注) 2012年度は速報値

※業務部門及び産業部門の一部のエネルギー消費については、産業連関表及び国民経済計算から推計した推計値である。

# (参考) 我が国の電力消費量の推移

■ 2012年度の最終エネルギー消費は、震災前の2010年度と比べて、生産量の減少や節電効果、2010年度と比べて冷夏暖冬であったこと等から、▲8.0%で減少。



【出典】総合エネルギー統計(最終エネルギー消費のうち電力)

(注) 2012年度は速報値

※業務部門及び産業部門の一部のエネルギー消費については、産業連関表及び国民経済計算から推計した推計値である。